



JAC GUNMA

公益社団法人

日本山岳会

群馬支部報

第11号

2020年
1月15日

激走武尊山 葛藤のスカイビュートレイル

石垣 光広

武尊山中、9月22日14時25分。下り斜面のコメツガに付けられた板には「100」と書かれている。スタート10時間半でようやくフルマラソン1回分を走り、残り100kmを示していた。心臓の音がささやく。「もう次のエイドで止めよう」一。

距離143km、累積標高1万mの上州武尊山スカイビュートレイルは一般大会では国内一ハードとされる。前回大会参加者のタイムを参考に目標35時間、11000キロカロリーを消費する想定で装備などを計画した。

9月22日午前4時、心配された台風17号の影響もなくスタートした。噂通りハードコースはまず、剣ヶ峰山まで標高差約1600mを駆け上がる。せっかく登ったのに宝台樹スキー場へ下り、再び2158mの武尊山頂へと登り返す。そこで残り100km。

この時点で「もうダメだ」というのが本音だった。下りで転倒し右大腿部を強打したので、リタイアの言い訳にしようとも考えた。だが、エイドに着かないと棄権もできない。「次のエイドまで行こう」「次のエイドで止めよう」を繰り返して前に進んだ。次々



ひたすらきつい登りを進むランナーの列

現れるスキー場の登り下りも心

身に堪えた。生気なくフラフラ登る大群はゾンビのようだった。

辛いのは眠さだ。78km第5エイドに23時7分到着、40分ほど寝転んだ。だが、揺れるヘッドランプの明かりと熊鈴の音は催眠術のようで、雨中の路上に座り込んで10分仮眠を追加した。途中、急斜面で木々にもたれて眠る人、林道の端に倒れたまま眠る人もいた。なかなか壮絶な光景だ。幻覚も見えてくる。

雨は夜明けとともに上がった。残り40kmの第7エイド、23日7時6分。「もう十分頑張った」「絶対ゴールする」と2人の自分が葛藤するが、何とか走りだすと、ようやく調子が上がった。

「ゴールするぞ!」と前向きになったのは最終第8エイドで素麺を3杯食べてからだ。青空がのぞき、最後は気持ちよく走ることができた。15時ゴール、タイム35時間32秒。長旅だった。

1人では走りきれなかった。武尾誠さんと宮川政治さんのサポートをはじめ、山岳連盟や前橋トレラン部のエイドなど多くの方のおかげで何とか気持ちをつなぐことができた。

「2度と走らない」と思ったが、今は「3時間は縮められるかも」とも感じる。いつか再挑戦したい。



達成感と疲れが入り混じったゴール直後

リレーエッセイ⑪「紙地図に寄せて」

自身が学生の時(30年以上前)、地質の学習で低山の沢や尾根を歩いたことがありました。道が無いところなので地形図が読めないと記録ができず、常に現在地を意識し、景色と地形図を見比べていたものです。500分の1や1000分の1の詳細な地図でさえ、現在地が正確に読み切れないことも多々ありました。その点

でいうと現在地が示される上、地形図の縮尺が自由に変更できる電子地図の出現は、自分にとっては「神」です。でも万が一にも電子地図が使えなくなったら…電子地図を携帯しつつも紙地図で楽しんでみる「紙地図Day」を設定してみるのも良いかも知れないと感じる今日この頃です。(小池 千秋)

赤道直下の氷河の山へ

日本・エクアドル外交関係樹立100周年記念
友好合同登山に参加して

荒木 輝夫

この話を初めて聞いたのは2月に千葉で開かれた四支部懇談会でした。渡邊栃木支部長からの報告で



地軸から計ると世界最高峰のチンボラソ山をバックに (中央：筆者)

「南米エクアドル」遠征隊募集と聞いたとき頭をガーンと叩かれた様な衝撃がありました。アルプスでもなくヒマラヤでもない「赤道直下：南米エクアドル」全く未知の世界、誰でもが簡単には行けそうもない山、ぜひ行ってみたい…。

その夜お風呂で偶然にも渡邊プロジェクトリーダーに逢い、参加したい旨を伝えました。これまでに膝は怪我で損傷はしていましたが、足腰強化にと昼休みは職場の非常階段上り下り6階×10回を始め1週間続けた頃、右膝が痛み出し一時は通常の歩行も困難になってしまい、結果登山隊は諦めトレッキング隊としての参加となった次第です。事前の富士山合宿でも高度順応はうまくいかず一晩中吐き気で一睡も出来ず、血中酸素濃度 (SPO2) 値も極めて低く登頂は難しいと諦めもついていた。若かりし頃は中国天山山脈の5050mでも何ともなかったのですが。

今回の遠征では、ここ南米エクアドルの空港に降り立った瞬間、標高2800mあり、翌々日の順応登山はピチンチャ山 (4696m) もテレフェリコ (ロープウェイ) で一気に4000mまで登ってしまう。世界最高峰の活火山コトパクシ山5897m、主峰チンボラソ山6310m共に4850mの山小屋から夜中に一気に登頂、下山と全て極めてタイトな登山 (往復12時間ほど休み無し) なので、高度順応力と強靱な体力が不可欠となります。わがトレッキング隊は、本隊がコトパクシ登山時は近隣の山で上部がルンゼ状で脆い

ルミニャウイ山4700mを、チンボラソ登山時は懐のモレーンに沿ってテンプロマチャイ4800mの強風の中、ビクーニャやアルパカの群れと共にエクアドルの森林限界である3500m以上の草原、砂漠地帯を地元ガイドと共にトレッキングを楽しみました。



ルミニャウイ山のルンゼを登る

登山の合間には観光面でも貴重な体験が出来ました。エクアドル赤道博物館、首都キトの旧市街地



世界遺産登録第1号 (キト旧市街地)

(世界遺産登録第1号)、パニョス温泉 (標高世界最高にある温泉地)、オタバロ (民芸品市場) など見るものが全てが桁外れな迫力でした。帰路はメキシコシティで12時間のトランジットがあり、コロナビール直営店を訪ねる事も出来ました。



標高世界最高の温泉地 (パニョス温泉)

何より感激したのは今回の遠征で2週間も付きっきりでお世話していただいたエクアドル山岳連盟ホセ・フラード会長、エクアドル日本大使館首藤大使、志賀先生ほか、滞在中のホームステイ、毎日の車で送り迎え等でした。また留守本部で対応していただいた高野留守本部長、関係スタッ

フの方々のお陰で本遠征隊は登頂に成功し当初の目的を達成する事が出来ました。来年はエクアドルチームを全力でお迎えしたいと思います。



最高のホームステイ先 (テニーさん家族)

編笠山（晴れの日逍遥会）

久保田重夫

ウィークデーに山に親しむ「晴れの日逍遥会」の初の山行が9月5、6日の2日間、八ヶ岳最南端の編笠山（2524m）であった。山行といっても狙いは“遠い飲み屋”と銘打った赤ちょうちんが迎えてくれる青年小屋。山頂直下であり、人情の厚い山小屋として全国の酒好きな常連が集う人気小屋だ。

参加したのは西田、中山、寺内、宮川（勉）、武尾、久保田、宮川（政）、萩原の8会員。八ヶ岳高原ラインを経て観音平に駐車。霧に包まれた樹林帯を歩き、押手川から山頂コースと巻き道の二手に分かれ小屋を目指す。ほぼコースタイム通りに午後2時過ぎに着いた。

辺りは静寂そのもの。山小屋パンフには「ここに来て自然の奏でる通奏低音を感じてみては」とあった。うなづける。今日の泊まり客は我々だけ。すぐにビールでまず乾杯。テラスでの外気が気持ちよい。ウイスキー、バーボン、熱燗などが次々と空になった。笑顔全快で会話も“舌好調”。宴会では懐かしい



「岳人の歌」などを唄い、盛り上がった。

早朝5時に起きた。快晴。目の前には雲海に浮かぶ朝焼けの富士山が。テラスからの絶景を独占し、感動に浸った。翌日の土曜日は80人が泊まるという。平日登山の魅力を体感した。帰りは巻き道で観音平に。途中、北岳の雄姿が見えた。「北岳の唄」が静かな樹幹に響き渡った。

車で10分南下した先にある「信玄棒道」にこの後、足を運んだ。信玄が北信濃攻略にあたっての軍用道路と伝えられている。表情豊かな石仏が点在する平坦な道を約3km歩き、当時の様相に思いを馳せた。

2019谷川連峰一人旅

北原 秀介

日本列島に大きな被害をもたらした大型台風も一段落した10月下旬に天神平から谷川岳・一ノ倉岳・芝倉岳・武能山・七ツ小屋山・大源太山を計画した。熊穴沢避難小屋からは霧雨状態となり、雨具を着ての歩行となった。肩の小屋に着くころには霧雨に加え濃霧となったが、当初から体力チェックを目的としていたので、計画通り蓬ヒュッテに向かった。



濃霧の谷川岳オキノ耳

オキノ耳からは7月の主脈縦走同様に全くの一人旅となったが、一ノ倉岳への緩い登りから80kg超級の

私がバランスを崩すほど東からの強風にあおられ始めた。たびたび両ストックで踏ん張りながら、これではまずいと判断し、芝倉岳避難小屋に退避と決め、ひたすら芝倉岳頂上を目指した。ところが芝倉岳頂上に着いた時にはピタリと強風が止み、当初計画通りに武能山に向かったが、これが失敗であった（ベルヌーイの定理を忘れていた）。芝倉岳と武能山の鞍部がさらに烈風となり、予定時間をはるかに過ぎた日没近くの蓬ヒュッテへの下りとなった。視界数メートルの濃霧の中、蓬ヒュッテの黄色い水タンクが目の前に現れた時には、ホッとしました。

オーナーの高波さんは不在で、たった一人で贅沢な1泊（事前に連絡済）を過ごさせてもらい、2日目は朝から雨のため、七ツ小屋山・大源太山をあきらめて蓬新道を土樽に下山したが、15・19号両台風で東俣沢沿いの登山道が破壊され、高巻きせざるを得ない箇所にはザイルが張ってあった。蓬ヒュッテ高波さんに感謝！

支部山行 上高地集中 西穂高岳班



7月26日、台風6号の進路を気にしながら、西田顧問と北原の2人は新穂高ロープウェイ経由で西穂山荘に向かった。ロープウェイ終点から森の中を一旦下り、標高差230mを一気に登ると北アルプス唯一通年営業をしている西穂山荘である。呑み助の北原は向かいの霞沢岳を眺めながら早速生ビールで1時間ほどの登りを慰労した。西穂山荘は200人収容のりっぱな建物であり、この日は100人以上の宿泊者で夕食も入れ替えてであった。



翌朝5時15分からの朝食時に

気象予報士でもある西穂山荘支配人から、気象

の詳細予報があり、9時までは天候の保証がされた。この段階で雨中での西穂高岳往復は74歳と69歳にはシンドイと判断し、独標往復とした。西穂山荘支配人の予報の通り、独標往復は好天の中で、目前の穂高連峰はもちろん、西の笠ヶ岳、南の焼岳・乗鞍岳が美しい姿を見せてくれ、大満足であった。8時40分、早々に西穂山荘を後にして上高地へ下山開始。登山路は良く整備され、木製の階段や梯子も歩きやすい高さで設置されているのに感心しながらの下山となった。しかし、下山路は想定以上に長く、予報の通り雨も降り出し、途中お猿さんの集団と遭遇しながら二人ともにへろへろになってJAC山岳研究所にたどり着いた次第である。写真の通り、稜線ですばらしい景色に出会えたことに感謝！(北原 秀介)

支部山行 上高地集中 穂高連峰縦走

絶景が見られることを信じて疑わなかった今回の山行。しかし台風接近、暴風圏内に入るとのこと…。不安の中、決行を決断。

上高地を5時10分に出発。正面の吊尾根は霧に覆われている。歩き出すと徐々に青空となり快適なトレッキング。横尾岩小屋跡付近で下山途中の宮川政治さんと出会う。涸沢小屋9時50分着。すると瞬間に雲行きが怪しくなり、素早く合羽を着て出発。

北穂高小屋に12時40分到着。外は嵐。

2日目、北穂高小屋を5時25分出発。台風は夜中のうちに通過したようだが雨と強風で視界も悪い。涸沢岳6時54分着。どこが難所かも分からず夢中になって進んだ。奥穂高岳7時53分着。視界ゼロ。



霧の中の前穂高山頂

予定より速いペースで吊尾根を歩き出す。やっと視界が開け綺麗な花々が疲れを癒やしてくれた。前穂高岳9時44分着。ここはたくさんの方がいた。岳沢小屋でほっと一息。根井さんのパーティーとお互いの無事を祈り先へ進む。山研15時1分着。足はがくがく、山研が遠く感じた。(田中 規王)

支部山行 上高地集中 岳沢パーティー

北アルプス南部の入門・観察コースとして、岳沢小屋までのコースを設定し、最近入会した会員に声をかけ、川端さん、島さん、萩原公平さんら3人とともに、7月27日、上高地に向かった。天気も心配ではあったが、翌日は回復するとの予報。初日はのんびりと入山し、雨具をつけることもなく大正池から



晴れゆく夕暮の上高地を見下ろす

梓川のほとりを歩き、3時過ぎに山研に入り、西穂から回ってきた北原パーティー、食事の用意をして待っていてくれた武尾パーティーと合流し、楽しい山の一夜を過ごした。

2日目は山研管理人の元川さんが自然観察会を開いてくれ、梓川左岸を明神

報 告

の途中まで往復し、きのう西穂から下山してきた西田さんも加わり、岳沢へと向かった。岳沢小屋は上高地からすぐそこに見えるが、標高差は700mある。しっとりとした樹林をゆっくりとしたペースで抜け、ガレ場から小屋へ。小屋の手前で北穂から縦走してきた田中会員とすれ違う。

夕暮れとともに雲も切れ、背後の穂高の岩稜、足下の上高地、そして焼岳から乗鞍まで見渡せるようになった。夏の夕暮れ時は長い。夕食後もウイスキーを飲みながら至福の時間をゆったりと過ごした。

(根井 康雄)

尾瀬合宿 アヤメ平班

メンバー：北原・荒木・宇佐美・根井 (CL)

10月5日、朝8時にロッジ長蔵に集合した至仏班とアヤメ平班。山の鼻からの周回ルートをとる先行の至仏班を見送った後、アヤメ平班もロッジの車で富士見下まで送っていただき富士見下を8時半出発。富士見峠までの緩やかな幅広い登りを2時間余りで富士見小屋へ。閉鎖された小屋は外壁がはがれ

かけ、かつてのにぎわった時代がまぼろしのようだ。

一人が登山靴を忘れるというアクシデントは急きょロッジ長蔵で長靴を借用してしのいだ。これが実は正解。富士見田代からの乾ききらない木道は滑りやすく、登山靴組は少なからず滑っていたが、長靴は完ぺきなフリクションを発揮した。

登るにつれて天気も良くなり、富士見田代に立つと、燧が眼前に姿を現した。アヤメ平に着くころには至仏もすっかり晴れ渡り、武尊、赤城、日光白根も一望。横田代から徐々に樹林に入る鳩待通りはやはりお気に入りの道だ。鳩待峠には1時半過ぎに到着。

タクシーで一気下山し、戸倉の温泉で汗を流し、長い夜に備えた。

(根井 康雄)



尾瀬合宿・至仏登山に参加して

2019年10月5日 (土)・6日 (日)

メンバー：西田・佐藤・木暮・川端・中島・田中 (CL)

みなかみ出身でありながら、一度も登ったことのなかった至仏山に登れる日が、ついにやってきました。朝8時、6人パーティーでロッジ長蔵を出発。山ノ鼻からひたすら続く登りと、雨に濡れた蛇紋岩。そんな急登の疲れを忘れさせてくれたのは、木暮さんによる植物講座でした。中でも、ヒツジグサの花言葉には納得しました。

森林限界から先、後ろを振り返ると、そこには絶景が！草紅葉が輝く尾瀬ヶ原、燧ヶ岳、アヤメ平、百名山の山々。このときの絶景は、今でも鮮明に目に焼き付いています。山頂ではならまた湖



を一望し、小至仏山を通過して下山。夜は、北原支部長の美しいフルートの音色に包まれながら、楽しい宴となりました。

今回は、自然の美しさと同時に儂さを実感する山行でした。自然を壊すのは簡単でも、守り続けて繋いでいくのは大変なこと。この地に生まれた者として、しっかりと向き合いたいと強く思うきっかけとなりました。貴重な機会をありがとうございました。

(中島あづさ)

健康登山塾2019が終了

2018年に続いて2年目を迎えた「健康登山塾2019」のまとめの会が11月23日、県立赤城公園ビジターセンターで開かれた。斎藤塾長から受講修了証と個人別アドバイスシートを受け取った塾生たちは充実した表情で1年間の活動を振り返っていた。

今期の健康登山塾は、前年の赤城山系から榛名山系に主会場を移して計7回の予定（1回は荒天で中止）で開催された。28人の塾生が3班に分かれて榛名富士、ニッ岳、掃部ヶ岳などに挑戦した。前期と同様、斎藤塾長以下、医療スタッフや会員がサポートし、塾生たちは血圧、脈拍などを測定しながら自らの体力に合わせた登山に親しんだ。

まとめの会は赤城山系での開催となり、予定していた地蔵岳への登山が雨のため中止となってしまったが、悪天候にもかかわらず大勢の塾生とスタッフがビジターセンターに集合した。斎藤塾長が「自分の体調、体力を知って健康づくりを意識した登山を心がけてほしい」と総評。塾生を代表して、森本修さんが「よい仲間ができ、登山の楽しさを知ることができた。これからも日々のトレーニングに努めたい」と感謝の言葉を述べた。最後にみんなで記念撮

斎藤塾長を囲み記念撮影する塾生たち



まとめの会で総評する斎藤塾長

影をして、山での再会を約束しあっていた。

(萩原 哲)

NEWS

[速報・短信]

0から始める山歩き

前橋市上川淵公民館が主催し、群馬支部がサポートする「0から始める山歩き」が、10月3日、同公民館での座学から始まった。10月20日には赤城・長七郎山を登り、11月、12月にも1回ずつの座学を行った。参加者8人という家族的な雰囲気の中でのゆったりと密度の濃い学びの場で、今後は公民館内の自主活動グループとして継続する方向。支部へも引き続きサポートが要請されている。現在、根井事務局長が講師となり、10月の長七郎山への山行には宮川会員が同行した。

第35回群馬県民の日記念事業 第42回県民登山大会

10月20日（日）、みなかみ町の赤沢スキー場から稲包山（1597.9m）、三国山（1636.3m）への2コースで県民登山大会（群馬県山岳連盟主催）が開かれ

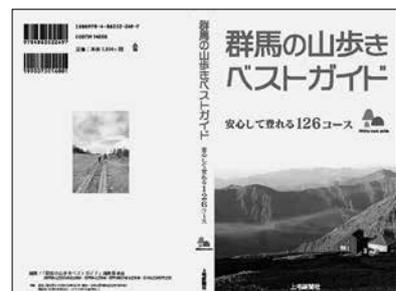
INFORMATION

お知らせ

全コース新取材 待望のガイドブック

群馬県山岳団体連絡協議会が総力を挙げて取り組んだ「群馬の山歩きベストガイド」が昨年末、上毛新聞社から発行されました。平成2年に初版が発行された「群馬の山歩き130選」を全面的に見直し、岳連、労山、日本山岳会群馬支部に所属する60人が調査・執筆と編集にあたり126コースを厳選取材し、群馬支部では尾瀬、赤城、四阿・

野反湖周辺などを担当しました。定価1540円(税込)で書店、アマゾンなどで販売中ですが、希望者は事務局までお申し込みください。著者価格でお分けします（送料別）。



た。稲包山へは赤沢スキー場から赤沢峠を経て稲包山に登り、ムタコ沢巡視路を下降する周回コース。三国山コースは赤沢スキー場から法師温泉、上信越自然歩道経由し三国峠から三国山への往復。ともにコースタイム8時間の健脚コース。群馬支部からは田中山行委員長が稲包山コースにスタッフとして参加した。岳連各会からのスタッフを含めて30人以上が参加した。

木暮理太郎翁を偲ぶ会

11月3日(日)、木暮理太郎翁の足跡を語り継ぐ会(服部佳郎会長)による日本山岳会第3代会長の木暮理太郎翁を偲ぶ会が、生誕の地の太田市寺井町の蛇川畔にある顕彰碑前で開かれ、地元や山岳関係者ら20人が集まり、その偉業を偲んだ。群馬支部からは北原支部長、中山監事、根井事務局長が、群馬県山岳連盟からは羽野顧問が、また地元からは生家を守る木暮英雄氏、「語り継ぐ会」の故深澤長平名誉会長の子息の直久氏が参列した。

ハイグレードハイキング講習会

11月10日(日)、東吾妻町の岩櫃山(802.6m)で群馬県山岳連盟指導委員会によるハイグレードハイキング講習会が開かれ、群馬支部から田中山行委員長が参加した。岩場での歩き方・登り方・下り方、危険箇所(鎖場・ハシゴ・他)の安全な通過方法、ビバークについてなど、グループメンバーをバックアップする技術を実践的に学んだ。講師、アシスタントスタッフを含む14人参加した。

日本山岳会年次晩餐会

令和元年度の年次晩餐会は12月7日(土)、天皇陛下もご臨席され、東京新宿の京王プラザホテルで開かれた。およそ500人が交流を深めた。群馬支部からは八木原日山協会長、北原支部長、平野顧問ら10人が参加。新入会員紹介では萩原哲会員が壇上上がった。翌日の記念山行は三つ峠山で行われ、根井事務局長が参加し、全国の仲間と富士山を望むハイキングを楽しんだ。

群馬の藪山 ⑦

中山 達也

【花柄山】(340m)、【経塚山】(340m)

2013年2月下旬 2.5万円 大間々

今回は、群馬の藪山の表題から少し外れるかも知れないが桐生のあまり知られていない低山を紹介する。位置は桐生駅の北西3.5km(直線)ほどにある。吾妻山の西側と言えば、ある程度分かると思う。

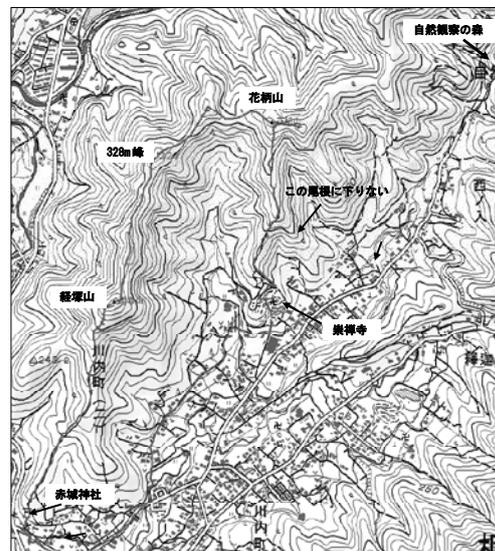
里山でいろいろ踏み跡はあるが南の赤城神社から登り一周してみた。

赤城神社へは、桐生信用金庫川内支店かその横のファミリーマート川内店を目指す。コンビニ前をわずかに北に入ると神社があり、境内に数台駐車可。

登山口は鳥居の右側の階段を登る。雑木の尾根を20分ほど登ると少し急坂になり間もなく経塚山に着く。南側の展望が開け渡良瀬川や八王子丘陵が望める。

北に向かい次のピークに立つと、木々の間から赤城や榛名が見えた。この先左(西)側が切れ落ちた所があり注意。さらに踏み跡が少し不明瞭になるが尾根を外さずに歩けば328m峰に出る。

328m峰の北のピークに立つと当時「小倉山→」と小さなプレートがあったがどの山を差すのか不明。ここで北に行かずに90度右(東)に折れて登り返すと花柄山山頂。展望はなし。「崇禅寺30分」「観察の森30分」とプレートがあった。午後、用事が



あったので、崇禅寺に向けて尾根を南に降りたが、踏み跡はほとんどなく尾根を忠実に降りるしかない。途中尾根が2分するので西の尾根に下れば道が出て来て崇禅寺に下りられる。あとは車道を15分ほど歩き赤城神社に戻る。

花柄山の一つ東の小ピークから尾根を北上すれば360.2m三角点峰に出て、自然観察の森に下りられるようだが未確認。この1周で約2時間。自然観察の森まで回っても4時間はいかないだろう。赤城や榛名が雪になる1、2月に陽だまりを求めてゆっくり歩くのに良い。

事務局だより

【主な活動・事業・イベント】……………

〈2019年7月〉

- 19年度第4回健康登山塾 (7/13 榛名・ニツ岳 周辺)
- 支部報第10号発行 (7/15)
- 第35回例会 (7/15 高崎・南公民館)
- 支部山行 (7/27・28 北アルプス南部・上高地 山研)
- 19年度第3回座学講習会 (7/31 前橋・市民活動支援センター)

〈8月〉

- 山の日イベントin谷川岳 (8/11 みなかみ・谷川岳周辺)
- 21世紀の森まつり (8/11 沼田・21世紀の森)
- 第4回座学講習会 (8/28 前橋・市民活動支援センター)

〈9月〉

- 晴れの日逍遥会山行 (9/5・6 南八ヶ岳・編笠山)
- 第5回健康登山塾 (9/14 榛名・掃部ヶ岳)
- 第36回例会 (9/18 高崎・南公民館)
- 上州武尊山スカイビュートレイル (9/21～23)
- 第5回座学講習会 (9/25 前橋・市民活動支援センター)
- 日本山岳会支部合同会議 (9/28・29 東京・千代田区)

〈10月〉

- 支部山行・尾瀬合宿 (10/5・6 尾瀬・ロッジ長蔵)
- 支部役員会 (10/16 高崎・南公民館)
- 第6回健康登山塾 (10/19 榛名・榛名富士)
- 0から始める山歩き (10/20 赤城・長七郎山)
- 県民登山大会 (10/20 みなかみ町・稲包山、三國山)
- チャレンジキッズ庚申山荘泊・庚申山登山 (10/26・27 足尾・庚申山)

〈11月〉

- 木暮理太郎翁碑前祭 (11/3 太田・寺井町)
- 晴れの日逍遥会山行 (11/7 旧中山道碓氷峠下り)
- 第37回支部例会 (11/20 高崎・南公民館)
- 健康登山塾まとめの会 (11/23 赤城山・ビクターセンター)

〈12月〉

- 日本山岳会支部連絡会議 (12/7 東京・京王プ

ラザ)

- 日本山岳会年次晩餐会 (12/7 東京・京王プラザ)
 - 支部役員会 (12/19 高崎・南公民館)
- 〈2020年1月〉
- 初日の出山行 (1/1 赤城・長七郎山)
 - 第38回支部例会・新年会 (1/15 前橋・ラ・フォンテーヌ)
 - 支部報第11号発行 (1/15)

【今後の主な予定】……………

〈2020年2月〉

- 日本山岳会関東四支部合同懇談会 (2/15・16 茨城・つくば市)

〈3月〉

- 木暮理太郎翁の足跡を語り継ぐ会総会 (3/8 太田・強戸行政センター) *講演：ぐんま県境稜線トレイル (北原支部長)
- 群馬支部第39回例会 (3/18 高崎・南公民館)
- 支部山行 (3/21・22 黒斑山)

〈4月〉

- 栃木支部虹芝寮スプリングミーティング (4/11・12 谷川岳・芝倉沢)
- 支部山行 (4/18 筑波山)

〈5月〉

- 日本山岳会全国支部懇談会 (5/16・17 宮崎)
- 群馬支部令和2年度通常総会・第40回例会 (5/20 前橋・元気21)

〈6月〉

- 山フェスタ (日程ほか詳細未定)
- 日本山岳会令和2年度通常総会 (6/20)

〈7月〉

- 日本山岳会全国自然保護集会
- 自然観察会 (7/11 湯ノ丸山)
- 群馬支部第41回支部例会 (7/15 高崎・南公民館)
- 支部山行 (7/17～19 北アルプス上高地集中)

【新入会員】……………

星野 弘美

<p>日本山岳会群馬支部報 第11号 2020年1月15日 発行：公益社団法人 日本山岳会群馬支部 Tel 027-333-4372 〒379-0109 安中市秋間みのりが丘5-169(北原方) 発行者：北原 秀介 編集者：根井 康雄 印刷：上武印刷株式会社</p>
--